

<研究名称>

当院で腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を施行した 5 症例の術前背景と手術前内科治療の効果についての検討

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 所 属 糖尿病・内分泌内科
職 名 副部長
氏 名 辻 賢

実施担当者 所 属 糖尿病・内分泌内科
職 名 部長
氏 名 安孫子 亜津子

<研究期間>

2019 年 11 月から 2020 年 11 月

<診療・研究の目的>

高度肥満 (BMI $\geq 35\text{kg}/\text{m}^2$) かつ糖尿病、脂質異常症、高血圧症などの肥満関連疾患を有する肥満患者を対象に、2014 年 4 月に腹腔鏡下スリーブ状胃切除術 (以下 LSG : Laparoscopic sleeve gastrectomy) が保険適応となった。我が国の肥満人口は年々増加しており、肥満症は生活習慣病の原因となり動脈硬化を高率に引き起こすメタボリックシンドロームの基盤となっていることが知られている。高度肥満症例では食事・運動・行動・薬物療法を中心とした内科的治療に対して抵抗性を示す場合が多く、LSG は高度肥満症患者の治療として有効かつ長期的な効果の維持が期待できる治療法である。当院で経験した LSG5 症例について、患者背景と術前内科入院での経過の詳細を報告 (第 64 回糖尿病学術年次集会) する。

<実施内容 (方法) >

2019 年 11 月から 2020 年 11 月の 1 年間に当院外科で腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を施行した高度肥満 5 症例について、術前内科入院で得られた患者背景と体重変化、HbA1c、内臓脂肪面積、睡眠時無呼吸症候群の合併の有無などのパラメーターの入院前から入院後の変化について後ろ向きに検討する。

評価項目

- ① 背景因子 : 年齢、性別、職業、糖尿病治療内容、睡眠時無呼吸症候群・脂肪肝の合併の有無
- ② 代謝パラメーター : 身長、体重、BMI、HbA1c、中性脂肪、LDL-C、内臓脂肪面積、

ABI、baPWV

<危険性（副作用）等>

特記事項無し

<倫理上問題になると考えられる事項>

本研究は後ろ向き観察研究であり、侵襲的な介入を伴わない。通常の診療と入院の元で保険診療上行われる検査や治療の効果について評価を行うものであり、本研究は治療に影響を及ぼさない。

患者のプライバシー保護のため個人情報の取り扱いには十分注意し、データ解析、発表時に個人を識別できない識別番号を使用する。

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 糖尿病・内分泌内科 辻 賢

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648